

インターバンクの声（2015 年 7 月 1 日）

昨日 6 月 30 日に国際通貨基金（IMF）への約 16 億ユーロの融資返済期限を迎えていたギリシャだが、奇跡は起こらず返済は出来なかったようだ。通常であれば事実上のデフォルト（債務不履行）になるわけだが、今のところ IMF 側は国民投票後の新たな展開に希望を託しているためか、デフォルトとは認識せず返済遅延と見做すとしている。日本時間の真夜中にかけても、ギリシャは「欧州安定メカニズム（ESM）」や「欧州連合（EU）」に新たな金融支援提案を働きかけていたようだが、新提案と支援策の延長はともに拒否されたようだ。ただ、今日もユーロ圏財務相会合はギリシャ問題についての討議を行うようで、何らかの打開策の可能性を探ると同時に、ギリシャの国民投票後に事態がさらに悪化する事態への対処などについて話し合うと思われる。ユーロは日本時間の午前零時を回ってからは大きな変化もなく、新たな局面が見えてくるまでポジションを持つことを敬遠しているようにも見える。明日の米雇用統計の発表も気になるが、週末のギリシャの国民投票が済むまでユーロ相場の様子見が続くそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。